

ナシ「秋麗」の裂果は新梢停止後の降雨で発生が助長される

ナシ「秋麗」は、新梢停止期頃（6月中下旬）の果実肥大が最も盛んになる時期に、降雨量及び降雨日数が多いと裂果の発生が助長される。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室（担当：中村健吾）

研究のねらい

良食味な早生の青ナシ「秋麗」は、熊本県イチ押しのブランドとして産地化を進めており、現在約15haが栽培されているが、梅雨期の降雨の影響で裂果（写真1）が発生し、収量低下を招いている。そこで、裂果軽減技術を確立するために、その発生要因を明らかにする。

研究の成果

1. 「秋麗」の裂果は、年次により発生率に差があり、発生が多かった2016年は、6月中下旬の降雨日数及び降雨量が多い（表1）。
2. 「秋麗」は、新梢停止期頃（6月中下旬）の果実肥大が最も盛んになる時期に連続した降雨があり、降雨量が多いと果実肥大が促進され裂果が助長される（表1、表2、図1、図2）。
3. 「秋麗」は、6月中下旬に樹上散水により連続的な多雨を再現することで裂果が増加する（表3）。

普及上の留意点

1. 5月～6月中旬に降雨が少なく果実肥大が抑制され、その後急激に肥大すると裂果が助長されるため、降雨が少ない場合はかん水（20～30mm/10a程度）を実施する。
2. 6月中旬から樹冠下にシートマルチを行い、降雨の浸入を防ぎ、急激な果実肥大を抑制することで、裂果の発生が軽減できる。

【具体的データ】 No. 952 (令和3年(2021年)6月) 分類コード 02-10 熊本県農林水産部

表1 ナシ「秋麗」の年次ごとの裂果率と降雨状況

調査年	裂果率 (%)	降雨日数 (日)	累積降雨量 (mm)
2016	53.7	11	586
2017	0.0	11	195
2018	1.6	7	335
2019	0.5	7	278

注)降雨日数及び降雨量は、熊本県甲佐アメダスデータの6月18日から6月30日の期間の累積値

表2 ナシ「秋麗」の年次ごとの生育ステージ

調査年	開花盛期 ^(z)	新梢伸長 ^(y) 停止期	収穫盛期 ^(x)
2016	4月8日	-	8月10日
2017	4月19日	6月22日	8月28日
2018	4月5日	6月15日	8月16日
2019	4月9日	6月19日	8月19日

z)全花数のうち、開花した花が80%を超えた日

y)発生した新梢(長果枝になるもの)のうち、半数以上の伸長が停止した日

x)全果数の50%以上が収穫された日

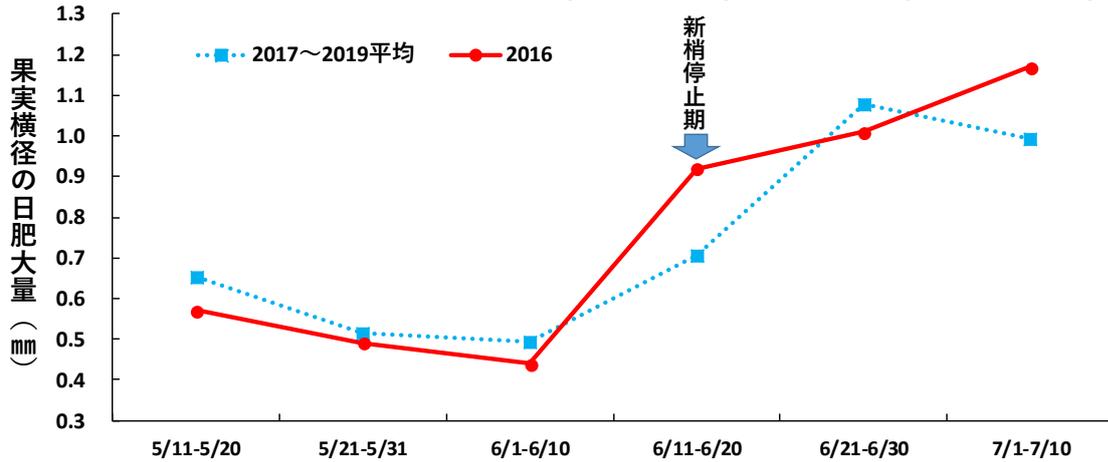


図1 ナシ「秋麗」の果実横径の日肥大量の推移

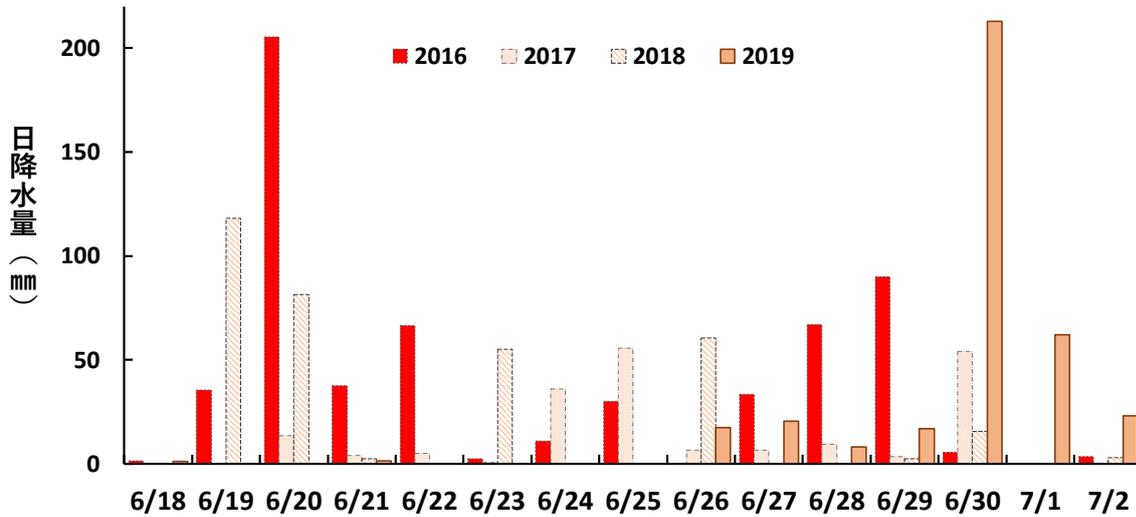


図2 年次別の日別降水量(アメダス地点:甲佐)

表3 樹上散水の有無がナシ「秋麗」の裂果に及ぼす影響

調査年	処理区	裂果率 (%)	降雨量+散水量 (mm) [※]
2018	散水無し	1.6	335
	散水有り	22.8	888
2019	散水無し	0.5	278
	散水有り	54.5	903

※6月18日~6月30日の期間の降雨量+散水量



写真1 「秋麗」の裂果